



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 7月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.173 2021.7

紹介内容 (6/1~6/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化  
① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  
○ 仙台農改：第1回JA仙台麦生産部会協議会が開催されました  
○ 仙台農改：令和3年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催されました  
○ 亘理農改：牧草コンクールが開催されました！  
○ 亘理農改：農業経営相談所との連携による、コロナ禍における花き農家の経営支援  
○ 気仙沼農改：いちご親株管理の先進事例視察を実施しました  
○ 仙台農改：サンフレッシュ七ツ森で定例会が開催されました  
② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
○ 気仙沼農改：気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会が、新たに販売会に取り組みました  
○ 大崎農改：大崎4Hクラブが親子の農業体験（小学生向け）で栽培指導をしました  
○ 石巻農改：石巻地区4Hクラブ青空市が好評  
③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
○ 石巻農改：水稲乾田直播栽培の現地検討会が開催されました  
○ 石巻農改：令和3年度スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの推進会議が開催されました  
○ 大崎農改：省力的な水稲種子生産に向けたスマート農業実演会が開催されました  
○ 仙台農改：乾田直播栽培の生育調査を実施しました  
○ 気仙沼農改：水稲農業展示ほの現地検討会を実施しました  
④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5  
○ 栗原農改：「くりはらマルシェ」で栗っこズッキーニを販売しました！  
○ 大崎農改：JA加美よつば「ぶどう栽培講習会」開催を支援  
○ 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました  
○ 登米農改：JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました  
○ 登米農改：「登米ぼてと組合」が設立されました  
○ 亘理農改：新予冷施設設備（真空予冷装置等）稼働式が開催されました！  
○ 亘理農改：シャインマスカットが開花しました！  
○ 亘理農改：JA名取岩沼きゅうり抑制栽培の講習会が開催されました！  
○ 仙台農改：大郷町の土地利用型法人によるえだまめの播種が行われました  
○ 大崎農改：JA古川でねぎの現地巡回が行われました  
○ 大河原農改：じゅうねん（エゴマ）の生産拡大に向けて  
○ 亘理農改：岩沼ハウス組合促成きゅうり出荷反省会が開催されました！  
○ 栗原農改：シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました  
○ 亘理農改：山元町の大規模露地野菜法人でタマネギの収穫が始まりました  
○ 美里農改：日本なしの現地検討会が開催されました  
○ 栗原農改：抑制かぼちゃの栽培講習会が開催されました

- ④ **園芸産地の育成・強化支援（続き）** . . . . . 9
  - 栗原農改：きゅうりの相互視察研修会を開催しました
  - 美里農改：採れたてトマトのラーメン「TOMARA-SHOP 鹿島台本店」OPEN
  - 石巻農改：8月盆出荷に向けやもと切花現地検討会を開催
- ⑤ **収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援** . . . . . 10
  - 大崎農改：令和3年産水稻の生育調査が始まりました
  - 大崎農改：農地整備事業と連携した営農の支援を行っています
  - 亘理農改：稲 WCS 専用品種「ホシアオバ」が順調に生育しています！
  - 石巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（支柱・病害虫編）の開催
  - 大崎農改：農地整備事業の推進に向けて地域内の協議が進んでいます
  - 登米農改：追稲作経営部会の第1回現地検討会が開催されました
  - 大崎農改：大豆の現地検討会が開催されました

## 2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① **時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援** . . . . . 12
  - 気仙沼農改：水稻の調査ほ（ひとめぼれ，だて正夢，金のいぶき）を設置し生育調査を開始しました
  - 石巻農改：令和3年度1回目の水稻生育調査を行いました
  - 美里農改：令和3年産小麦の適期刈取に向けた現地検討会が開催されました

## 3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① **地域資源の活用等による地域農業の維持・発展** . . . . . 13
  - 石巻農改：GI登録の「河北せり」を鳥獣被害から守るために
- ② **大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援** . . . . . 14
  - 石巻農改：株式会社宮城リスタ大川の社員研修会を開催しました
  - 大河原農改：丸森町竹谷地区の台風からの復旧と今後について
  - 石巻農改：オリーブ巡回指導会

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○第1回JA仙台麦生産部会協議会が開催されました

令和3年6月1日

仙台農業改良普及センター



5月25日、せんだい農業園芸センターにおいて第1回JA仙台麦生産部会協議会が開催され、JA仙台管内の麦を生産する農業法人等8人と関係機関が出席しました。はじめにJA仙台の代表理事組合長から「需要に応じた米づくりがより強く求められており、飼料用米や畑作物への作付け転換が必要」という挨拶がありました。

続いて、令和元・2年産麦の販売情勢や令和3年産国産麦の需要と供給、赤かび病の共同防除実施状況、令和4年産の作付予定面積、及びカントリーエレベーターでの集荷体制などについてJA等から報告がありました。普及センターからは、間近に控える麦の刈取について、適期刈取のための判断方法や注意点について説明しました。普及センターでは、麦類の収量が高位安定し、かつ高品質生産できるよう、今後もJAと連携して支援していきます。

#### ○令和3年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催されました

令和3年6月4日

仙台農業改良普及センター



5月25日、管内市町村や農協等の関係機関が参集され、令和3年度仙台地方米づくり推進本部会議が開催されました。

会議では、需要に応じた米づくりの実現に向けて、「業務用多収米の生産拡大」など3つの重点推進事項及び「水田フル活用による需要に応じた米の生産」、「先進技術等を活用した生産の効率化と高度化」な

ど7つの推進事項による今年度の基本方針及び事業計画が説明され、計画実現に向け行政及び農業関係機関、団体が連携して取り組んでいくことが確認されました。

また、管内の各農協から、乾田直播栽培の増加など今年度の米づくりの特徴的な取組や動きについて話題提供がなされ、情報共有が図られました。

普及センターでは基本方針が達成されるよう、農業者の方々に対し、技術支援等を実施していきます。

#### ○牧草コンクールが開催されました！

令和3年6月4日

亘理農業改良普及センター



5月24日、亘理町酪農組合による牧草コンクールが開催されました。亘理町酪農組合は、亘理町内の酪農家で組織されている団体です。

当日は組合員、亘理町農林水産課及び亘理農業改良普及センター職員が出席し、組合員のほ場を巡回して収量調査を行い、牧草の生育状況を比較検討しました。また、普及センターからは、牧草の県奨励品種について情報提供を行う等、組合員と関係機関で活発な情報交換があり、有意義な会となりました。

普及センターでは、今後も自給飼料作物の生産拡大に向けて支援してまいります。

#### ○農業経営相談所との連携による、コロナ禍における花き農家の経営支援

令和3年6月11日

亘理農業改良普及センター



新型コロナウイルス感染症の影響を受け、花の需要が減少し、花き生産者の経営負担が増す中、農業経営相談所との連携により、専門家を活用した花き生産者の経営診断支援を実施しました。

HS経営コンサルティング(株)代表取締役で中小企業診断士である本田茂先生を助言者として招き、これまでの販売実績を振り返りつつ、財務諸表の経年比較やキャッシュフローを確認し、数値の変化として現れた課題や改善点、対象農家が計画する生産・販売面での改善策を共有することができました。

また、月次資金繰り表の作成とその実績に基づく修正について、今後も本田先生の助言を頂きながら継続して取り組むことになりました。

普及センターでは、農業経営相談所等との連携を図りながら、管内の農業者の経営発展に向けた支援を行っていきます。

### ○いちご親株管理の先進事例視察を実施しました 令和3年6月30日 気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市でいちごの栽培に取り組むシーサイドファーム波路上(株)は、受け苗による育苗管理を行っています。今回、プロジェクト課題の一環として、従業員向けの先進事例の視察を企画し、管理のノウハウを学びました。

視察先は、同様に受け苗による育苗を行っている(株)いちごランド石巻(石巻市)です。親株の葉かきやランナーの伸ばし方、肥培管理、従業員の配置などの経営面についても丁寧に教えていただきました。

先進事例に刺激を受け、有意義な経験となりました。栽培の効率化・高品質化に向けて普及センターも支援を続けていきます。

### ○サンフレッシュ七ツ森で定例会が開催されました 令和3年6月30日 仙台農業改良普及センター



6月25日に(有)サンフレッシュ七ツ森会議室において、JA新みやぎあさひな地区本部主催で「サンフレッシュ七ツ森定例会」が開催されました。

当法人は1haのガラス温室でトマトのロックウール栽培に取り組んでおり、現在、大玉トマト「富丸ムーチョ」と中玉トマト「カンパリ」の2品種を栽培しています。

この定例会は毎月1回開催されており、その時期の販売状況や生育状況の確認、栽培上の問題点や今後の対策について検討しています。今回は、今作最後の定例会で、販売実績の検討及び生育経過や栽培管理について振り返りを行い、次作に向けての課題を検討しました。

また、次作ではミニトマト「アンジュレ」の試作を予定しており、今作の課題解決と併せて新たな取組に対しても、引き続きJA新みやぎ、JA全農みやぎと連携して技術、販売の両面で支援していきます。

### ②新たな担い手の確保・育成

### ○気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会が、新たに販売会に取り組みました 令和3年6月8日 気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会は会員数9人と少数ではありますが、いちご栽培を行っている農家を中心に、収穫した野菜を使ったクレープ販売を行う会員等、バラエティに富んだメンバーで活動を行っています。当4Hクラブでは、クラブ員の収入を増やすとともに、4Hクラブをアピールするため、令和3年5月20日にクラブ員が栽培・製造するいちごとクレープの販売会を気仙沼合同庁舎で行いました。

この販売会は、これまで月1回のペースで3回行っていますが、「いちごの酸味と甘みのバランスがとても良くて美味しい」、「今回食べたクレープも美味しかったが、次回は別の味のクレープも食べたい」と大変好評で、予想以上の売上げがありました。販売会に参加した4Hクラブ員は、今後もお客様に喜んでいただける商品を作りたいと、気持ちを新たにしています。

## ○大崎4Hクラブが親子の農業体験で栽培指導を しました

令和3年6月14日

大崎農業改良普及センター



6月6日に大崎生涯学習センター（パレット大崎）主催の『親子でいっしょに農業体験&家庭菜園講座～さつまいもを育てよう』が大崎市古川西荒井の畑で開催され、約50名の親子が参加しました。

このイベントは大崎地域の親子（小学生向け）を対象に、農業体験を通して食育に対する理解を深め、身近な自然環境について自ら進んで課題を見つけ、学び、考える力を養うことを目的に開催される全3回の体験型学習です。

大崎4Hクラブは、このイベントを平成24年から継続して支援しており、栽培指導や作物の管理をこなっています。

当日は気持ちのよい青空の下、さつまいもの定植を行いました。4Hクラブ員は、さつまいもの植え方について丁寧に説明した後、参加した親子と一緒に作業を行いました。普及センターでは、今後も大崎4Hクラブの活動支援を行っていきます。

## ○石巻地区4Hクラブ青空市が好評

令和3年6月30日

石巻農業改良普及センター



6月22日に石巻合同庁舎玄関前において、石巻地区4Hクラブが青空市を開催し、若手農業者が栽培した新鮮な野菜等（トマト、きゅうり、ブロッコリー、玉ねぎ、ねぎ、じゃがいも、花苗）をクラブ員6名が直売し、消費者交流を行いました。

朝5時に収穫したブロッコリーや新玉ねぎ、日々草が人気で、一般市民や合庁に勤務する職員など96

名のお客様が訪れ完売、好評でした。

今年はコロナ感染症まん延防止重点措置の解除を待ち、アクリル板の設置や手指消毒など対策を講じながら青空市を開くことができました。今後は8月、11月、2月に旬の野菜等を直売する青空市の開催を予定しています。

## ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

### ○水稲乾田直播栽培の現地検討会が開催されました

令和3年6月4日

石巻農業改良普及センター



5月20日に水稲乾田直播栽培の現地検討会（主催：J A いしのまき稲作部会）が開催されました。乾田直播栽培は、代かきや育苗の手間を必要とせず、麦や大豆に使用する機械を水稲に利用できるため、大規模経営体を中心に管内で広く普及している省力技術です。検討会では、4月に播種した水稲種子が十分な苗立率が得られているか、雑草の草種や発生程度から除草剤の効果が十分か、これからどんな除草剤を使うべきかといったことを4か所（桃生、河北、河南、矢本）の現地ほ場を巡回しながら検討しました。当日は約50名の参加者があり、本栽培法について指導をいただいている東北農業研究センター（古畑技術適用研究チーム長、赤坂上級研究員）にも出席していただきました。今年、播種後の降雨量が少なかったため、苗立ち数が全般的に少なく、乾燥した場合は、出芽を促進するための一時的な灌水（フラッシング）を行うこと、草種に応じて効果的な雑草剤を散布すること等のアドバイスを受けました。次回は、幼穂形成期前の7月上旬に検討会を開催する予定となっています。

**○令和3年度スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの推進会議が開催されました**  
令和3年6月11日  
石巻農業改良普及センター



石巻市でパプリカを生産する(株)デ・リーフデ北上及び(株)デ・リーフデ大川、栗原市の(株)ベジ・ドリーム栗原を現地ほ場とする「大規模施設園芸経営体の連携による安定出荷体制構築」実証プロジェクトの第1回推進会議が開催されました。取組機関は前述の農業法人に加え、短期収穫予測を行う農業用ロボットの開発を担う企業や、生産環境から出荷体制まで一括したデータ管理が出来るプラットフォームを作成するIT企業、宮城大学や農研機構西日本農研等多岐にわたります。

推進会議では、参画する構成員から実証事業の内容について説明がありました。また、参画機関の実証スケジュールが共有されました。

午後は、(株)デ・リーフデ北上と(株)デ・リーフデ大川のほ場見学会が行われました。(株)デ・リーフデ北上は現在収穫中であり、鈴木社長及び阿部総務部長から会社設立から収量増加の取組等について説明がありました。また、(株)デ・リーフデ大川では竣工されたばかりの真新しい設備と、仮植中のパプリカを視察しました。

参画する構成員は、対面での打ち合わせが初めての機関も多く、関係する事業について盛んに情報交換が行われました。

普及センターでも、先端技術を用いた高度な施設園芸の取組に対し、今後とも支援を行います。

**○省力的な水稲種子生産に向けたスマート農業実演会が開催されました**  
令和3年6月15日  
大崎農業改良普及センター



6月8日に中山間地域におけるスマート農業技術を活用した精密、省力な種子生産実証の一環として、自動水管理制御装置と自動操舵付き水田除草機による異株除去の実演会が加美町で開催されました。当日は、実証コンソーシアムメンバーの他、県内水稲採種組合や関係JA職員が参加しました。

ほ場に設置した自動水管理制御装置について操作法の実演があり、水田3枚を1つの単位として、スマートフォンを用いて遠隔給水と排水を行う方法について見学しました。

また、水田除草機については、前方で植え付け条を感知して、その直後、土壌を攪拌して雑草、異株等を除去するものです。担当したオペレータからは、条間、株間の雑草や漏生稲（前年のこぼれた粃が発芽したもの）の除去に非常に効果が高いと感想がありました。

普及センターでは、引き続き実証経営体の支援とスマート農業の実用化に向け、きめ細やかな支援を行っていきます。

**○乾田直播栽培の生育調査を実施しました**  
令和3年6月17日  
仙台農業改良普及センター



仙台普及センター管内では近年、生産者の水稲乾田直播栽培への関心が高く、特に仙台東部地区を中心にその面積が拡大しつつあります。このため、当該技術のさらなる普及拡大を目指し、今年度から重点活動に位置づけて支援しています。

6月9日には、仙台市の農事組合法人仙台中央アグリサービスの協力を得て設置した生育調査ほにおいて、仙台農協と合同で1回目の生育調査を実施し、順調な生育であることを確認しました。今後も生育調査を継続し、調査結果については技術情報の作成や、7月7日に開催を予定している勉強会で活用することとしています。

普及センターでは、雑草防除等生産者が抱える課題解決を支援し、当該技術の早期定着を図ってまいります。

**○水稲農薬展示ほの現地検討会を実施しました**  
令和3年6月30日  
気仙沼農業改良普及センター



新しく発売された除草剤や殺菌・殺虫剤などの農薬について、普及センターでは管内に展示ほ場を設置して効果の確認を行っています。

農薬を開発したメーカーや試験場等の関係者が集まり、実際の効果について現地で確認し、速やかな普及につなげることを目的に、現地での検討会を6月15日、18日、23日と実施しました。

本年度普及センター管内では2つの除草剤を供試しており、効果の高い農薬の普及につなげられるよう、引き続き状況を確認していきます。

**④園芸産地の育成・強化支援**

**○「くりはらマルシェ」で栗っこズッキーニを販売しました！**  
令和3年6月1日  
栗原農業改良普及センター



5月28日、県庁1階ロビーで開催された「くりはらマルシェ」にJA新みやぎ栗っこズッキーニ部会が出展し、ズッキーニの販売を行いました。

販売時は、普及センターで作成したレシピ集を配布して、栗っこズッキーニをPRしました。また、生産者やJA職員が、浅漬けや炒め物以外でも、生でサラダにしたり、お味噌汁に入れたりしても美味しくいただける等、それぞれのおすすめの食べ方をお客様に提案しました。購入者からは、新鮮で色つやのある外観が好評で、準備した300本のズッキーニは昼過ぎには完売しました。

これから盛夏に向けて出荷が本番を迎えます。皆様もお近くのスーパーや栗原市内の農産物直売所で

ぜひ栗っこズッキーニをお買い求めいただき、召し上がってください。

普及センターでは、今後も生産者や関係機関と連携しながら、ズッキーニの消費拡大及び産地育成に向けた支援を行っていきます。

**○JA加美よつば「ぶどう栽培講習会」開催を支援**  
令和3年6月1日  
大崎農業改良普及センター



5月21日、加美町において、JA加美よつば主催の「ぶどう栽培講習会」が開催され、生産者やJA関係者等総勢約60名が参加しました。

講習会は、JAが5年前から呼びかけている「水稻育苗ハウスを利用したぶどう栽培拡大」に繋がるものです。

会場は、JAが自らハウスを借用して栽培を始めた所であり、今後もJA職員が生産者と一緒になって管理に取り組み、研修の場として活用していく予定です。当日の講師は普及センターが務めました。今後も栽培管理の指導などで連携を図っていきます。

普及センターでは、これからも特色ある園芸品目の生産拡大に対する支援を行っていきます。

**○JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました**  
令和3年6月8日  
仙台農業改良普及センター



5月25日に、大和町のぶどう「シャインマスカット」ハウスを会場に、JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催され、部会員19名が参加しました。

当普及センターが講師となり、花穂整形作業、無核化処理、新梢管理等について説明しました。花穂整形作業については、専用の器具を利用することで作業効率が向上することから、使用方法を実演しながら説明しました。さらに、樹形が完成している樹に対しては、農業・園芸総合研究所で開発した収量増加が可能となる光反射シートの敷設について説明し、導入を促しました。また、房づくりや新梢管理作業は短期間に集中するため、作業が遅れてしまう傾向があります。そこで、普及センターでは適期に作業ができていないか確認するためのチェックシートを作成し、全部員に配布し、活用を促しました。チェックシートは部員に好評で、活用することで高品質なぶどうづくりにつながると期待されます。

普及センターでは今後も、高品質なぶどうの生産に向けて同部会を支援していきます。

### ○JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました 令和3年6月8日 登米農業改良普及センター



5月28日、JAみやぎ登米キャベツ部会の部員9名が参加し、登米市米山町のほ場で現地検討会が開催されました。

今作は4月の降霜や低温により一部で生育の遅れが見られたものの、その後は天候に恵まれ、順調に生育が進んでいました。普及センターからは、今後は気温が上昇し降雨の多くなる時期となるため、品質を落とさないよう、病害虫の適切な防除や排水対策などの再点検を行うよう注意喚起を行いました。

部会では今後も、良質で食味の良いJAみやぎ登米のブランド「地中海キャベツ」の安定出荷に向けた活動を継続していく予定です。

### ○「登米ぼてと組合」が設立されました 令和3年6月8日 登米農業改良普及センター



5月28日、登米市で、JAみやぎ登米の加工用ばれいしょ生産者7名が参加し、「登米ぼてと組合」設立総会が開催されました。

これまで登米地域では、水田を活用し、契約栽培によるポテトチップス用のばれいしょの生産が行われてきましたが、今後さらなる生産性向上や生産拡大に向けた活動を充実させるため、新たに「登米ぼてと組合」を設立することとなりました。

加工用ばれいしょは、水田地帯である当地域において、ほ場整備を行った水田での作付けが可能な高収益作物として、関心の高い品目となっています。また、機械化体系も確立されていることから、麦や大豆といった土地利用型作物を中心に栽培する経営体を取り組みやすい品目のひとつです。組合の設立を契機に、さらなる生産拡大が期待されます。

### ○新予冷施設設備(真空予冷装置等)稼働式が開催されました！ 令和3年6月8日 亘理農業改良普及センター



5月31日、JAみやぎ亘理における新予冷施設設備(真空予冷装置等)の稼働式が開催されました。この施設は、県内で数か所しかなく、県の園芸特産重点強化整備事業等を活用して設置されました。

新予冷施設設備(真空予冷装置等)の特徴は、①環境に配慮したオイルレス式(乾式)の真空ポンプを使用、②トレーサビリティに対応した予冷処理データの取得が可能、③日常のメンテナンスフリーのための空冷式冷凍機の使用、④冷却ムラがなく調整後の鮮度保持に優れ、品質の安定化などが上げられ、コスト低減や産地の信頼性の確保等を行い、これからの産地間競争に打ち勝つことを目的に導入されています。

JAみやぎ亘理では、そ菜類の主力である春菊やそらまめ等に使用する予定であり、普及センターでは、園芸産出額向上に寄与することが期待されるため、活用等を支援してまいります。

**○シャインマスカットが開花しました！**  
令和3年6月9日  
巨理農業改良普及センター



巨理農業改良普及センターでは、シャインマスカット栽培技術の向上と省力化を目的に、プロジェクト活動に取り組んでいます。

巨理地域では、生育が平年より10日程度前進しており、栽培しているハウスの形状等によりますが、5月下旬頃からシャインマスカットの開花が始まりました。

この時期は、生産者が一斉に花穂整形の作業を始め、その後、無核化のためのジベレリン処理や摘粒作業を行う等、短期間で仕上げなければならない作業が続くことから、省力化器具の利用等も勧め、作業改善支援を進めています。

普及センターでは、今後も研修会の開催や個別巡回等により、当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。

**○JA名取岩沼きゅうり抑制栽培の講習会が開催されました！**  
令和3年6月11日  
巨理農業改良普及センター



6月8日に、JA名取岩沼ハウスきゅうり部会の抑制きゅうり栽培講習会が開催され、15名の出席がありました。

講習会では、埼玉原種育成会より、抑制栽培の栽培管理やおすすめの種類について説明がありました。普及センターからは、農薬の耐性・抵抗性管理と農薬展示ほの成績の2つの内容について説明を行い、抑制栽培の病害虫防除の徹底を促しました。

促成栽培は今月末に終わりますが、今作から炭酸ガス発生機を導入して、収量向上を図っている生産

者が増えており、環境制御技術の支援についても引き続き行っていきます。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上と安定生産に向けて、支援していきます。

**○大郷町の土地利用型法人によるえだまめの播種が行われました**  
令和3年6月14日  
仙台農業改良普及センター



大郷町前川地区では、令和5年度からの農地整備事業が予定されており、事業完了後の高収益作物の導入が要件となっています。その作物としてえだまめとねぎが検討されており、地区内の土地利用型法人4法人が、今年初めてえだまめ栽培に取り組むことになりました。普及センターでは、このうち栽培面積が大きい「農事組合法人かすかわ」と「有限会社薬師農産」の2法人を中心に、栽培技術支援や作型の検討を行っています。

5月25日、「農事組合法人かすかわ」では、えだまめの播種作業を行いました。好天に恵まれた当日は、朝9時から作業を開始し、途中、播種間隔や播種の深さなど機械の微調整を行い、約1時間で30aのほ場の播種が終わりました。今回播種したえだまめは、8月中旬頃の収穫を見込んでいます。

普及センターでは、大郷町やJA新みやぎあさひな地区本部と連携しながら、土地利用型法人によるえだまめの導入と定着を図っていきます。

**○JA古川でねぎの現地巡回が行われました**  
令和3年6月15日  
大崎農業改良普及センター



6月11日にJA古川ねぎ部会の現地巡回が行われました。現地巡回は普及センターとJA古川営農指導員及びJA古川ねぎ部会長が2班に分かれ、6月11日と18日の2日間をかけて全ての部会員のほ場を巡回し、播種や定植などの作業状況や生育状況、病害虫の発生状況について確認を行います。

長ねぎ栽培ではねぎの生育に合わせて少しずつ土を被せて、光に当たらなくすることで白い部分を作ります。7～8月の収穫を目指す夏ねぎでは現在、その土を寄せる作業を行っています。また、9月以降に収穫を予定している秋冬ねぎでは定植作業が行われています。6月11日に巡回したほ場では夏ねぎ、秋冬ねぎともに生育は概ね順調でした。普及センターからは、肥料切れを起こさないように土寄せの際に追肥を行うこと、今後注意が必要な病害虫や梅雨入り前の雑草管理等について指導を行いました。

JA古川ねぎ部会では既存生産者の高齢化が進む一方で、4Hクラブ員等の若い生産者も多く見られます。普及センターでは、ねぎの産地発展に向けて引き続き支援を行ってまいります。

### ○じゅうねん(エゴマ)の生産拡大に向けて 令和3年6月18日 大河原農業改良普及センター



丸森町じゅうねん栽培研究会ではじゅうねん(エゴマ)の生産拡大を目指しており、令和2年度には移植機やコンバインを導入しています。令和3年5月28日には研究会と丸森町農業創造センター主催でエゴマの栽培講習会が開催されました。普及センターと農業創造センターが講師となつて、機械移植を念頭に、播種板を使った播種の実演を実施するなど、必要な栽培技術の周知を図りました。

秋には黄金に輝くエゴマ油が販売されますので、ぜひご賞味ください。

### ○岩沼ハウス組合促成きゅうり出荷反省会が開催 されました！ 令和3年6月21日 巨理農業改良普及センター

6月15日に、岩沼ハウス組合の促成きゅうり出荷反省会が開催され、6名の出席がありました。

反省会では、促成栽培の生育状況や病害虫等について、各組合員から説明がありました。今作は、炭酸ガス発生機を新たに導入した方が増えたこともあり、組合全体の出荷量は増加しましたが、土壌病害のホモプシス根腐病の発生など、課題となる部分もあり

ました。組合員と普及センターで対策等について、意見や情報交換を行い、次作の抑制栽培に向けての有意義な反省会となりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上と安定生産に向けて、支援してまいります。

### ○シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました 令和3年6月21日 栗原農業改良普及センター



6月8日、栗原市金成のシャインマスカット栽培園地で、「シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

栗原地域では、水稻育苗ハウスを活用したシャインマスカット等の栽培が始まっており、新たな園芸品目として平成30年度から栗原圏域産地戦略プランの重点振興品目に位置付けられています。

今回の研修は特に新梢管理と房づくりを中心とした栽培技術の向上を目指し、シャインマスカットをすでに導入している生産者及び今後導入意向のある方々、合わせて20人ほどが集まりました。

初めに、普及センターで作成した栽培暦を基に、いつ、どの様な生育のタイミングで、何の管理を行うのかを再確認したあと、地域でも早期にシャインマスカットを導入し、栽培経験を積み重ねている田中中学さんを講師に、管理作業を実演していただきました。研修園地は、雨よけ栽培、無加温栽培、二重カーテン無加温栽培と3つの作型があることから、各生育ステージに合わせた管理(整房からジベレリン処理、摘粒まで)の実際を一度に見ることができ、参加者にとっては非常に良い機会となりました。

さらに、「鳥獣害の足跡検索キー・鳥獣による農作物被害に見分け方」の資料を配布しながら、鳥獣害の被害状況ややってみた対策とその効果について、参加者同士で情報交換をしました。現在、なかなか決め手となる対策がないことから、今後も折に触れ情報交換をし、その情報を積み重ねていくことを確認しました。

本研修会は年間3回を予定しており、次回は収穫適期の見極め・目揃いをする予定です。

**○山元町の大規模露地野菜法人でタマネギの収穫が始まりました**  
**令和3年6月22日**  
**巨理農業改良普及センター**



山元町の(株)やまもとファームみらい野では、6月中旬よりタマネギの収穫が始まっています。今年度の作付け面積は、昨年を上回る19haで、昨年10月下旬に定植されたタマネギは順調に生育し、収穫期を迎えています。

広大なタマネギ畑では、油圧式デガーターで根切り・掘り取りし、掘り取り後の風乾させたタマネギが並べられ、2人乗りのオニオンピッカーで、次々と拾い上げて1t入りの鉄コンテナに収穫されていきます。運搬された鉄コンは、定置式オニオンタッパーで茎葉の処理と選別が行われた後、温風乾燥機で3日程度乾燥させ倉庫に収納され、主に業務用として日量10tペースで8月まで市場に出荷される予定です。

普及センターでは、今後も農業法人と協力しながら生産活動を支援してまいります。

**○日本なしの現地検討会が開催されました**  
**令和3年6月23日**  
**美里農業改良普及センター**



6月17日、JA新みやぎ北浦梨部会の現地検討会が、部会員ほ場(美里町北浦地区)を会場に開催され、部会員等23名が参加しました。

講師に宮城県農業・園芸総合研究所の高嶋副主任研究員を招き、ほ場を見ながら今後の管理作業について解説していただきました。

また情報提供では、引き続き高嶋副主任研究員から、今春当管内を始め宮城県内広く被害があった凍霜害について、他地域の状況や凍霜害を受けたほ場の今後の管理について説明していただきました。

参加者から、凍霜害で着果量が大幅に少ない日本なし樹の今後の管理や障害果の摘果時期について質問があり、高嶋副主任研究員から解説していただきました。

**○抑制かぼちゃの栽培講習会が開催されました**  
**令和3年6月23日**  
**栗原農業改良普及センター**



6月14日、JA新みやぎ栗っこの抑制かぼちゃ栽培講習会が、同JA瀬峰野菜集荷場で開催され、管内のかぼちゃ生産者17名、種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、定植時期を逃さないように早めの畑作りを行うことや、台風対策について説明がありました。普及センターからは、病害虫の出にくい環境づくりを心がけることや、防除に使用できる薬剤として、耐雨性や速効性のある薬剤を提案し、適期散布を呼びかけました。参加した生産者は、害虫の生態や防除方法について質問するなど、作付けに向けて積極的に情報収集を行っていました。

普及センターでは、JA新みやぎ栗っこのかぼちゃの安定生産に向けて、今後も継続して支援していきます。

**○きゅうりの相互視察研修会を開催しました**  
**令和3年6月24日**  
**栗原農業改良普及センター**



6月15日、普及センター主催で、継続的改善手法(SPDCA)に取り組むきゅうり生産者4戸及び1法人(栗原市志波姫・若柳地区)を対象に、各々のハウスを巡回しながら栽培上のポイントを学ぶ相互視察研修会を開催しました。

各ハウスで生産者から作付状況と栽培管理方法について説明を受けた後、きゅうりの生育状況を見ながら、追肥の頻度や病害虫の防除方法及びタイミング等について意見交換を行いました。普及センターからは、温度改善や暑熱対策として今年度試験的に導入したミスト機器の事例について、測定した温湿度のデータを用いながら、情報提供を行いました。品種の特性や、誘引方法と使用する資材等について、幅広い質問が出され、活発な相互視察研修会となりました。

今回の相互視察を通じ、生産者が自らの栽培管理方法を見直す機会となり、気づきを得たことで、栽培技術のレベルアップが期待されます。

**○採れたてトマトのラーメン店  
TOMARA-SHOP 鹿島台本店 OPEN  
令和3年6月29日  
美里農業改良普及センター**



高糖度トマトを栽培する(株)アベーズキッチンファームでは、自社産のトマトを利用した「とまとラーメン」を開発し、6月22日「TOMARA-SHOP 鹿島台本店」をオープンしました。

「とまとラーメン」は味噌味と塩味の2種類で、トマトピューレをスープに使用しており、ご自慢の中玉トマトが添えられています。トマトの爽やかな甘みと酸味がベースの味噌、醤油とマッチし、老若男女を問わず、トマト好きにはたまらない逸品です。

また、新型コロナウイルス感染防止も踏まえ、座席には一席づつ仕切りが設置してあります。

店舗は、県道16号石巻鹿島台色麻線に面していて、お昼時には地元の家族連れに加え、営業マンや、噂を聞きつけたトマト好きの方も遠方から訪れています。

直売所も併設されており、新鮮なトマトの他、今後は地域で生産された農産物の販売も予定されています。

**【主なメニュー】**

- とまと味噌ラーメン 880円
- 全乗とまと味噌ラーメン 1,280円 (写真)
- とまと塩ラーメン 800円
- 全乗とまと塩ラーメン 1,100円
- 冷やしとまと 500円

- ・住所：大崎市鹿島台大迫東高岩 119-10
- ・電話番号：0229-87-3922
- ・営業時間：火～土 11:00～15:00

**○8月盆出荷に向けやもと切花現地検討会を開催  
令和3年6月30日  
石巻農業改良普及センター**



6月21日にJAいしのまきやもと切花生産組合現地検討会が開催され、4ほ場を回りました。

8月盆用の施設菊の生育は概ね順調ですが、普及センターからは、梅雨期の病害虫対策として、殺菌剤や殺虫剤のRACコード(農薬の作用機構分類)を参考に、系統や効果の異なる薬剤を発生初期にローテーション散布することを助言しました。

**⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**

**○令和3年産水稻の生育調査が始まりました  
令和3年6月7日  
大崎農業改良普及センター**



6月1日に令和3年産水稻の第1回目の生育調査を行いました。

普及センターでは、稲作生産者に適切な栽培管理を指導できるよう、それぞれの地域で生育調査を実施しています。大崎農業改良普及センターでは宮城県の主要4品種(ササニシキ、ひとめぼれ、だて正夢、金のいぶき)を含め、計8品種、10地点を調査しています。

今回はテレビ取材もあり、取材に対して、「本年の水稻は強風や日照不足の影響もありましたが概ね順調です。今後は、茎数確保のための浅水管理を徹底していただきたい」と説明しました。

普及センターでは水稻の安定生産に向け今後も調査を行い、技術支援をしていきます。

**○農地整備事業と連携した営農の支援を行っています**  
令和3年6月11日  
大崎農業改良普及センター



5月30日に大崎市岩出山下真山地区における農地整備事業の地元説明会に出席し、普及センターから今年度行う支援の内容について説明を行いました。

下真山地区では農地整備事業を契機に、高収益作物の導入や地域を将来にわたり担う法人等の担い手の組織化を目指しています。普及センターでは今年度より「下真山地区における農地整備事業を契機とした地域農業の発展」と題したプロジェクト課題を実施しており、市や県農業農村整備部と連携して取り組んでいます。

今回の説明会では、事業要件の説明を農業農村整備部が行い、その内容を受けて、普及センターは担い手の法人化や高収益作物の栽培などの支援を行うことを説明しました。出席者からは「地域が高齢化する中、一丸となって農地整備を推進すべき」「担い手の検討が重要だということがよくわかった」など事業への高い意欲がうかがえました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、農地整備事業を契機に話し合いを進め、新たな活力ある地域農業の体制づくりに取り組んでいきます。

**○稲 WCS 専用品種「ホシアオバ」が順調に生育しています！**  
令和3年6月15日  
亘理農業改良普及センター



県では、飼料作物における奨励品種の普及拡大を目的として、展示ほを設置しています。亘理普及センターにおいては、稲 WCS 専用品種の「ホシアオバ」について、亘理町の畜産農家に協力をいただき、展示及び調査をしています。「ホシアオバ」は、宮城県において極晩生性で、多肥で茎葉比率が高く、多収となる

品種です。展示ほのほ場では、5月中旬に移植を終えて、順調に生育しています。

「ホシアオバ」の展示ほについて、御興味のある方は普及センターまでお問い合わせください。

**○アスパラガス栽培管理勉強会(支柱・病害虫編)の開催**  
令和3年6月18日  
石巻農業改良普及センター



6月15日に東松島市で生産者ら40人が参加し、パイオニアエコサイエンス(株)松永邦則氏を講師に、アスパラガス栽培管理勉強会(支柱・病害虫編)を開催しました。

前回4月7日にアスパラガスの定植実習をした(株)パスファーム立沼(佐藤正代表取締役)の畑で、今回は支柱立ての実習と病害虫防除について研修を行いました。

松永氏からは、今後の栽培管理や、早めの病害虫防除に努めることなどの指導がありました。佐藤代表からは、栽培管理や収穫販売などの感想を話されました。普及センターからは、主な病害虫と殺菌剤・殺虫剤の一例を紹介しました。また、実習では、支柱立てのコツや、黒い板に茎葉を叩いて害虫を発見する方法などを学び、活発な意見交換が行われました。

石巻管内では地域農業の活性化のため、高収益作物としてアスパラガスに注目し、「採りつきり栽培®」などの導入・定着に取り組んでいます。次回の勉強会は、9月に予定しています。

**○農地整備事業の推進に向けて地域内の協議が進んでいます**  
令和3年6月23日  
大崎農業改良普及センター



6月11日、大崎市岩出山下真山地区における農地整備事業の推進委員会が開催されました。

今回の役員会では、地区界の確認や事業の要件について詳細な説明がありました。今後推進委員が地域内で説明するにあたり「和牛繁殖経営の多い地域だが、営農経費節減効果ではどのように算定するのか」、「整備地区内の減反はどのように考えるか」など、多くの質問がありました。また、推進委員会の会長からは「今後担い手の明確化を進める必要がある。候補者全員を対象に、普及センター職員を招いて法人化研修会を行いたい」と事業の推進へ強い意欲が示されました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、法人化研修会による地域の担い手の育成を進めるとともに、農地整備事業を契機に話し合いを進め、新たな活力ある地域農業の体制づくりを推進していきます。

### ○**迫稲作経営部会の第1回現地検討会が開催されました**

令和3年6月23日

登米農業改良普及センター



6月18日にJAみやぎ登米迫稲作経営部会の第1回現地検討会が開催され、稲作部会員、農業メーカー担当者、関係機関を含めて17人が参加しました。

JAみやぎ登米では、各地区の稲作部会で様々な試験を実施しており、今回は、除草剤展示試験の効果の確認とイネの生育状況を把握するために開催されました。

部会員5人のほ場を巡回し、一部でオモダカやクログワイ等難防除雑草の残草が見られましたが、概ね除草剤の高い効果を確認することができました。イネの生育も順調で、有効茎数を確保しているほ場も見られました。

現地巡回の後、JAみやぎ登米迫営農経済センター敷地内の野菜集出荷場において総合検討を行い、普及センターからは今後の肥培管理のポイントについて助言を行いました。

迫稲作経営部会では、7月に第2回現地検討会の開催を予定しています。

普及センターでは、今後も良質な米づくりの推進に向けた支援を行ってまいります。

### ○**大豆の現地検討会が開催されました**

令和3年6月30日

大崎農業改良普及センター



6月25日にJA加美よつば管内の第1回大豆現地検討会が、加美町小野田地区ほか2地区のほ場で開催されました。検討会には生産者の他、JA加美よつば、BASF ジャパン株式会社及び普及センターの担当者が参加しました。

普及センターから今後の管理として、雑草抑制や生育促進等を目的に中耕・培土を2～3葉期及び6～7葉期を目安に2回行うこと。除草剤散布は、雑草の発生を見ながら、雑草の小さい時期に散布するよう指導しました。BASF ジャパン株式会社の担当者からは、除草剤の使用法・使用上の注意点などについて説明がありました。

大豆生産者からは、除草剤散布と中耕培土のタイミング、追肥を行う時期、害虫防除時期等活発な質問が出され、大豆の生育を確認しながら意見交換を行いました。

普及センターでは、引き続き大豆の高品質安定生産に向け、きめ細やかな支援を行ってまいります。

## **2. 農畜産物の安定供給**

### **①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援**

### ○**水稻の調査ほ(ひとめぼれ、だて正夢、金のいぶき)を設置し生育調査を開始しました**

令和3年6月2日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼管内は先月末で概ね田植えが完了し、その後の活着、生育等は順調に推移しています。普及センターでは、今年度からひとめぼれ、だて正夢に加え、金のいぶきの調査ほを設置しました。

金のいぶきは全国的にも珍しい玄米食の品種です。胚芽部分が通常品種の約3倍と大きく、食感がよいことに加え、ビタミンEやアミノ酸の一種であるGABA（ギャバ：γ-アミノ酪酸）を豊富に含み、低アミロース米のため、白米と同じ水加減・時間で炊けるなどの特長があります。味や炊飯の手間で玄米を敬遠していた人にも親しみやすい品種です。

### ○令和3年度1回目の水稲生育調査を行いました 令和3年6月14日 石巻農業改良普及センター



6月1日に今年度第1回目の水稲生育調査を行いました。今回調査したほ場は、「ひとめぼれ」（矢本，河南）、「ササニシキ」（桃生，稲井）の4か所です。

5月の管内の気象は、平均気温や日照時間が平年並からやや高め（多め）に推移しました。今回の調査では、水稲は概ね順調な生育となっていました。

今年はこれらの調査ほの他に、県のブランド品種「だて正夢」（矢本）と「金のいぶき」（蛇田）の普及展示ほ、業務用米品種の「つきあかり」（矢本）の生育調査ほも設置しており、これらの生育調査も実施しています。これらの生育調査ほの生育結果については、下記のURLにて石巻管内向けの稲作情報として発信していきますので、「宮城の農業普及現地活動情報」と合わせてご活用ください。

### ○令和3年産小麦の適期刈取に向けた現地検討会が開催されました 令和3年6月29日 美里農業改良普及センター



小麦の刈取時期を目前に控え、南郷地区及び涌谷地区は6月17日、松山地区は18日、鹿島台地区は21日と、管内各地で小麦の現地検討会が開催されま

した。

今年も感染症対策のため会議室等での座学は最小限とし、現地ほ場での巡回調査・検討に重点を置いて開催されました。

現地検討会では、参加者のほ場を巡回して小麦の登熟状況・穀粒の水分を調査し、収穫時期を判断しました。今年は、出穂期が早く、その後の登熟期間も高温傾向で経過したことから、例年より収穫時期が早まる状況について確認することができました。

小麦の刈取適期は数日間と短い上に、梅雨時期とも重なることから、良質な小麦生産に向けて継続して支援していきます。

## 3. 持続可能な農業・農村の構築

### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

#### ○GI登録の「河北せり」を鳥獣被害から守るために

令和3年6月18日  
石巻農業改良普及センター



石巻市では、令和2年12月に「河北せり」が地理的表示（GI）に登録され、地域の重点品目となっています。しかし、近年ニホンジカやカモによる鳥獣被害により河北せり産地が脅かされています。

そこで、6月14日に河北せり生産地域（皿貝地区・馬鞍地区・日影地区・中島地区）のせり生産者を対象に、（合）東北野生動物保護管理センターの研究員を講師に鳥獣被害対策勉強会を開催し、ニホンジカとカモの生態を知り、その上で効果的な被害対策を学びました。また、約1か月間、河北せり生産地域である皿貝地区の山際9か所にセンサーカメラを設置したところ、すべてにニホンジカやカモシカ、一部のカメラにはイノシシが確認され、近い将来イノシシによる被害対策も検討しなければならないことを目の当たりにしました。

生態と被害対策方法について学んだ後、参加者を地区毎に2グループに分けて、被害状況を地図に落とし込み、クリアファイルを防鳥ネット、糸糸を侵入防止柵に見立てて対策のシミュレーションを行いました。実際にカメラ映像で鳥獣が確認できたこともあり、意見が飛び交い活発なワークショップとなりました。

今回の勉強会が鳥獣被害対策の一助となり、「河北せり」産地のさらなる発展につながればと思います。

## ②大規模自然災害等からの復旧・復興

### ○株式会社宮城リスタ大川の社員研修会を開催しました

令和3年6月16日

石巻農業改良普及センター



6月11日、(株)宮城リスタ大川の社員研修会を開催しました。当普及センターでは、令和2年から東日本大震災により被災した大川・北上地区の農地の復旧を担う3法人の支援を目的としたプロジェクト「被災農地における土作りの推進による生産性向上」を実施しており、本研修会はその活動の一環として開催したものです。当日は大豆播種作業の最盛期ということで、作業の合間をぬって8名の社員の方々の参加により、現場での開催となりました。

研修会では、普及センター職員から大豆の栽培法や水稲の水管理を中心に説明を行いました。大豆の栽培法では、昨年は雑草多発により低収だったことから、碎土率を高め、土壌の乾燥に留意して除草剤を散布することや、中耕培土や排水対策をしっかりと行うことを説明しました。水稲の水管理では、5月の浅水管理、6月の間断かん水、7月の低温時の深水管理について、また、地域特有の水管理として塩害対策のため中干しをしないこと等の説明を行いました。社員の方々は、暑い中にも関わらず、熱心にメモを取って聴いていました。研修会後は、社員の方々から、作土が浅い、水もちの悪い水田があることなどの意見が出されました。

研修会は、今年度あと3回予定しています。普及センターでは、引き続き、東日本大震災からの復興を担う法人の支援に取り組んでいきます。

### ○丸森町竹谷地区の台風からの復旧と今後について

令和3年6月23日

大河原農業改良普及センター



令和元年東日本台風により大きな被害を受けた丸森町では、農地の災害復旧基盤整備工事が順次完了しており、竹谷地区では田植えを再開し復興の第一歩を歩み始めています。同地区で営農再開の主体となる丸森中央集団転作組合では、5月26日に関係者約30名が集まり総会を開催して、営農再開するまでの活動を振り返り、この先の活動計画について話し合いを行いました。

また、これから引渡されるほ場に園芸品目の作付けを検討するため、6月8日に営農部会を開催し、いくつか候補となる品目を絞りこみました。水稲以外の品目の作付経験が少ない地区ではありますが、今後も話し合いを重ねて、地域の実情にあった品目を決定する予定です。普及センターでは、作付品目の選定や栽培技術の情報提供など、継続して支援していきます。

### ○オリーブ巡回指導会

令和3年6月28日

石巻農業改良普及センター



石巻市では平成26年以降オリーブの試験栽培が行われています。栽培面積は年々増加しており、令和3年4月時点で4haあまりとなっています。

栽培の主体は平成29年に設立された「石巻市北限のオリーブ研究会」で、生産者団体の他、石巻市、復興庁、宮城大学や県が構成員となっています。研究会では行事の一環として香川県から(株)アライオリーブ社長の荒井雅信氏を講師としてお迎えし、定期的に指導会を開催しています。

今年第3回目となる今回の指導会は、6月22日・23日の2日間にわたり、石巻市内6か所の栽培試験地を巡回指導する形で開催されました。講師からは、これから発生が多くなる病害虫の防除や、ちょうど満開期となり受粉の時期となっていることから、確実に受粉・結実させるための作業等についてお話をいただきました。また、普及センターからは、オリーブ花粉の発芽率調査の結果について説明しました。

今年1月の低温により一部の樹に凍害が発生するなど、今後の生育への影響が心配されましたが、今年は昨年以上の開花があり、今後自然災害などの発生がなければ、かなりの収量増が見込まれます。

石巻産のオリーブは植栽後の年数が浅いこともあり、まだ本格的な収量には達していませんが、現在のところ市販はされていませんが、昨年試作したオイルは上々の品質となっています。近い将来、石巻産のオリーブオイルが店頭に並びますので、お見かけの際は、ぜひお買い求めいただき、御賞味くださいますようお願いいたします。



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

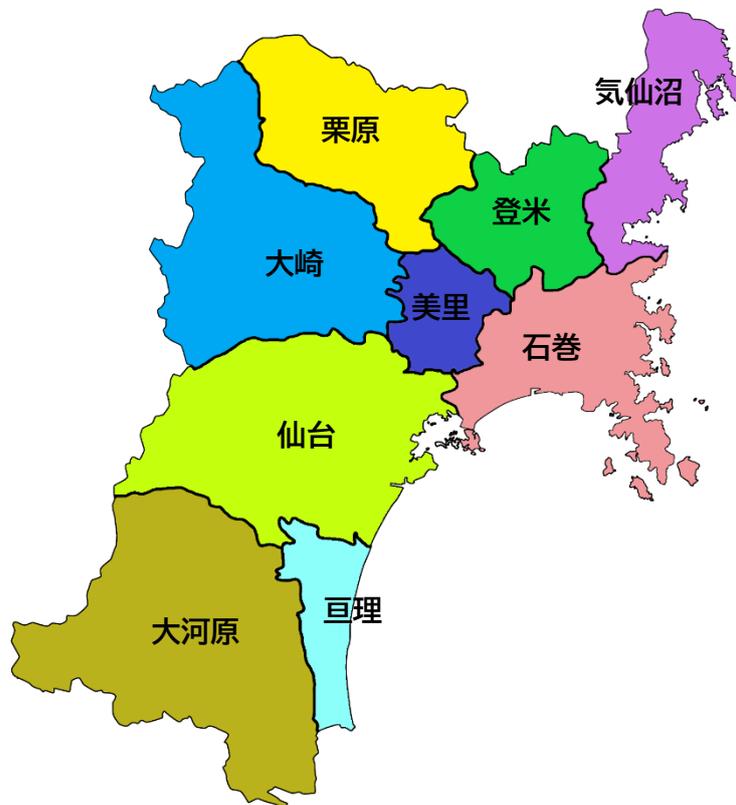
<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.173

発行日:2021年7月19日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : [gbfs@pref.miyagi.lg.jp](mailto:gbfs@pref.miyagi.lg.jp)